

## 物心両面で人の一生をサポート。 社会貢献したい、という思いを結実



「物心両面からトータルライフサポート事業を展開している企業です」と言う佐久太郎社長

アトリー（東京・渋谷区）の創業は1988年。

「もともとは経営者セミナー、社員教育などを手掛ける教育産業としてスタートしました」

と佐久太郎社長は語る。人も会社も1本の木に例えることができる。木は幹を通して花や実に栄養を送り、次世代への種が地に還り、生命活動を循環している。「アトリー(a tree)」は、企業活動を通して、社会世界に限りなく貢献することを目指しているところからのネーミングだ。

その創業精神のとおり、社員教育から子供の教育事業へと拡大し、現在は健康事業、特に健康食品や食品機器、さらには不動産事業へと、多彩な事業を展開している。

中でも、現在力を入れているのが、健康をサポートする商材の販売だ。例えば、還元イオン治療器。これは、空気のビタミンと呼ばれるマイナスイオン発生装置で、血液をきれいにしたり、活性酸素を消去したり、自律神経の調整などの健康効果があるといふ。奈良県大和郡山に体験ルームを設けて、きめ細かな販売法で信頼と評価を得ている。ほかに、電位療法で頭痛や肩こりなどに効能・効果を示す「MI治療器SER」、還元水を作る「アクアデルタ」なども扱う。各種健康食品、サプリメント

ント、せっけんなどのデイリーケア商品の開発・販売も力を入れている業務のひとつ。特に、乳酸菌生産物質を顆粒にした「摂源」は、腸内環境を整えるばかりでなく、高濃度のアミノ酸18種、ビタミンB群、ミネラルなどを豊富に含む健康食品で、血液をサラサラに整え、生活習慣病予防に力を発揮する。こうした事業とは別に、15年前から、クボタのライスロボ、寿司厨房、精米機など業務用食品機器の取り扱いも、経営の柱のひとつとして拡充してきた。

その延長線上で、最近、クボタの電動カートの取り扱いも開始した。介護保険レシタル対象品であるだけに、今後、大きな拡大が望めるジャンルである。

さらに奈良・大和郡山では入居者が子供の教育環境、相互保障などに対する

共通の価値観を分かち合うトータルライフサポートマシンの展開にも着手している。

「こうしてご説明すると、なんでも屋のような印象をお持ちでしょうが、芯は1本。社会に貢献する企業を目指すという信念なのです」

佐久氏によれば、最終的な目標は学校経営だといふ。そのため、現在の年商10億円という経営規模をできるだけ早く拡大し、学校経営にシフトする考えだ。

「社会的認知を高めるためにも、できるだけ早く上場したい」という佐久氏。積極的なマルチ展開で、信念の実現を目指して邁進中だ。

TOKYO